

着火しづらいと思ったら

KOTELYZER[®] 90 AUTO II



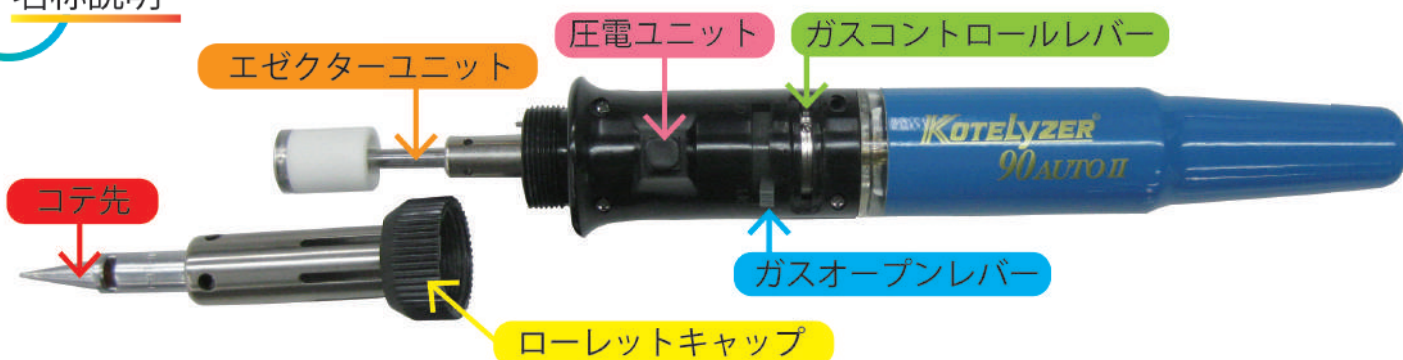
コテライザー本体が着火しない原因として次の項目が多くみられます。

- ①気温によるガスの吐出不良
- ②エゼクターユニットの詰まり
 - ※エゼクターユニットはコンプレッサーのエアガンやエアードスターなどで噴くと詰まりが改善する可能性もあります。また、日々の詰まり防止としても効果的です。
- ③圧電ユニットの消耗（安全の為、お客様では交換できません）
- ④本体内部の火口弁（ガス吐出量調整部品）のつまり（安全の為、お客様では交換できません）

※コテライザー本体のビスの取外しなどの分解・改造は禁止としています。

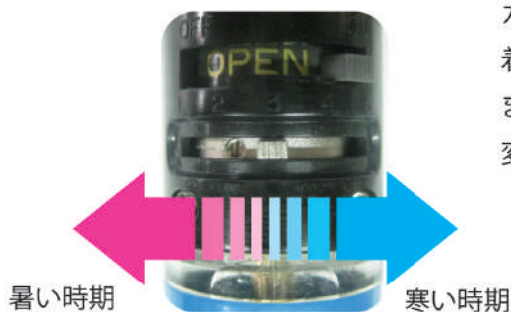
これは、分解・改造時に内部部品を損傷させ、ガス漏れに繋がる危険性があるためです。

01 名称説明



02 気温によるガスの吐出不良

気温によるガスの圧力変動で、暑い時期はガスが出が多くなり、寒い時期はガスが出が少なくなり着火しづらくなります。



ガスコントロールレバーを中央より寒い時期は右側、暑い時期は左側で着火するとガスが出る量が調整されて着火しやすくなります。また、寒い時期にコテライザーに充填するガスを冬季用ガスに変更すると圧力が高くなり着火しやすくなります。



コテライザー専用ガス
品番：70-60
適正作業温度
約 10～35℃



コテライザー冬季用ガス
品番：70-61
適正作業温度
約 5～20℃

03 エゼクターユニットのつまり

エゼクターユニット（消耗品）が詰まり始めるとガスが出が悪くなったり、全く出なくなり着火がしづらくなります。

- ① ガスコントロールレバー下の透明部分でガスが入っている事を確認します。

本体を平面に置いた状態

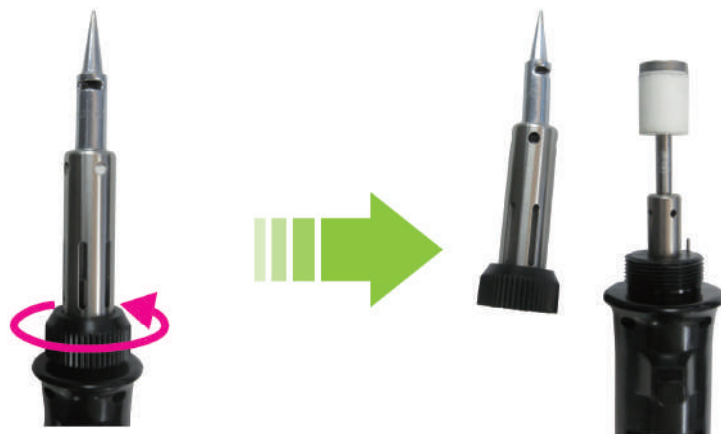


本体を斜めに傾けた状態



コテライザー本体を斜めにした時に、透明部分に液化ガスが動くのが分かればガスが入っている証です。

2 ローレットキャップを回して外し、エゼクターユニットが見える状態にします。



3 ガスオープンレバーを OPEN にして、着火をせずにエゼクターユニットの先端に耳元を当てて先端から『シュー』というガス吐出音が聞こえるか確認します。



この辺りから『シュー』
と音がします。

ガスの吐出音が聞こえない場合 ⇒ 4 へ

ガスの吐出音が聞こえる場合 ⇒ 5 へ

4 ガスの吐出音が聞こえない場合

エゼクターユニットが完全に詰まっているか、ガスの吐出量低下の可能性がありますが、どちらか見極めるために下記の様にします。

④-1

ガスオープンレバーを OFF にする



④-2

精密ドライバーなどをエゼクター部分の孔に差し込み、
回して取外す。



④-3

下の赤○部分を耳元に近づけてガスコントロールレバーを ON にします。



※エゼクターユニットを外した状態の場合、
ガス吐出音は一瞬で小さな音の為、
聞き逃しに注意が必要です。

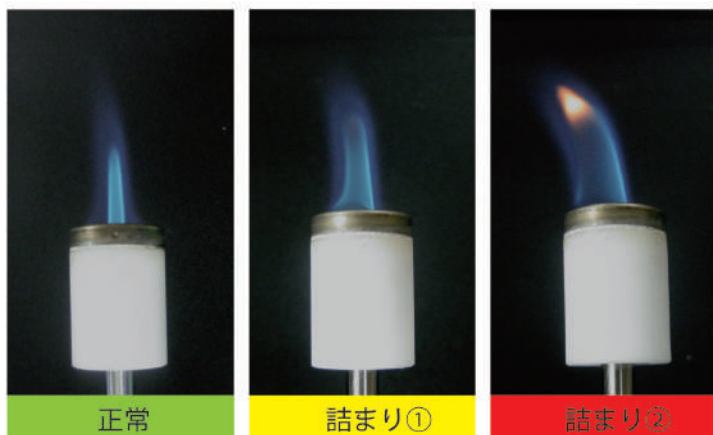
エゼクターユニットを外した状態でガスの吐出音が聞こえる 且つ、エゼクターユニットを付けると吐出音が聞こえなくなる場合は、ガスの吐出量の異常、またはエゼクターユニットの詰りが考えられる為、ガス吐出量の調整または、エゼクターユニットの交換が必要です。

5 ガスの吐出音が聞こえる場合

ガスオープンレバーを OPEN にして、ライターやトーチで直接着火し炎の状態を確認します。

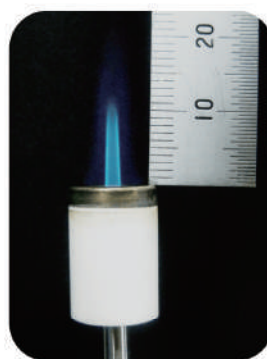
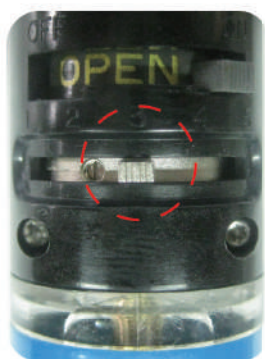
炎が青く逆三角形にキレイに出ていれば正常です。

炎が正常に出ない場合はエゼクターユニットの交換をお勧めします。



工場出荷時にはガスコントロールレバーが真ん中の時に、炎長が 10～11mm になるように調整がされています。

炎長が小さ過ぎても、大き過ぎても着火不良の原因となります。



※『ガスの吐出量の調整方法』・『エゼクターユニットの交換方法』は別ページ

04 圧電ユニットの消耗

ローレットキャップを回してコテ先を外した状態にして圧電ユニットを押した際に、圧電スパークが発生するか確認します。

スパーク無し



スパーク有り



何度か圧電を押してもスパークしない場合は交換が必要です。

※但し交換はガスタンク周りで危険な為、サービスセンターでの修理となります。

また、通常ご使用時にスパークが発生するのは写真の部分では無く、エゼクターユニット上部の火口部分内部でスパークが発生します。